

群馬の自然環境		非常勤講師 新井 健司	
科目カテゴリ	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200120

1. 授業のねらい・概要

この科目は、群馬県にある本学で4年間を過ごす学生諸君を対象に、周辺の自然環境について学ぶ機会を提供する目的で開講されている。群馬県は、総面積のおよそ3分の2を山地・丘陵が占める内陸県である。2,000m級の山脈や火山が聳え、山間を縫う利根川水系の河川が変化に富む美しい景観をつくっている。有名な尾瀬や各地の温泉には、多くの人々が訪れて自然の恵みを楽しんでいるが、一方‘からっ風’や雷など、厳しい気象現象が多発する土地柄でもある。

授業では、群馬県の自然環境を総合的に紹介しながら、人間の活動を支え、時には脅威となる自然の実態を理解してもらう。受講を契機に、各自のふるさとの自然環境を新たな視点で見直し、人と自然の共生について考えてほしい。

2. 授業の進め方

講義型ではあるが、現象が実感できるように、AV機器で写真や資料を映写し、各種の標本・模型等も回覧する。また、講義の合間に図面作業を挿入し、遠望の利く晴天時には、屋外での地形観察を実施する。

3. 授業計画

1. 日本列島と群馬県（群馬の多様な自然環境）	9. 群馬の生物（2）（生物多様性の保全）
2. 群馬の地形（1）（利根川水系、山地・丘陵・平野）	10. 県土の生い立ち（1）（大陸の時代）
3. 群馬の地形（2）（大学からの展望）〔実施日変更あり〕	11. 県土の生い立ち（2）（日本列島ができたころ）
4. 群馬の地質（1）（県土をつくる岩石・地層）	12. 県土の生い立ち（3）（群馬に海があったころ）
5. 群馬の地質（2）（火山と火山活動、温泉）	13. 県土の生い立ち（4）（氷河時代～現在）
6. 群馬の気候（1）（四季の気候、地域の気候）	14. 群馬の自然災害と環境問題
7. 群馬の気候（2）（‘からっ風’と雷）	15. 群馬の自然保護（尾瀬の自然保護活動ほか）
8. 群馬の生物（1）（主な野生動物と植物）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回のテーマについて、書籍・科学雑誌などで予習し（約1時間）、毎回ノートを読み返して、復習すること（約1時間）。天気の良い休日などに、近郊の山野に出かけて直接自然にふれる機会を持てば、より理解が深まるであろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出物（レポート・図面）にはコメントを書いて返却する。試験では終了後に正解を公表し、各自で見直してもらう。

6. 授業における学修の到達目標

群馬県の大学で学ぶ学生として、県内の自然環境について一通りの知識を持ち、群馬の歴史や文化・産業などとともに、他県の人に群馬県の総合的な紹介ができる程度の力をつけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

試験（80%）、受講態度（15%）、提出物（課題・レポート）（5%）をもとに、成績評価を行う。

8. テキスト・参考文献

テキストは指定しないが、地名の確認のため、群馬県地図（何れの出版社のものも可）を用意するとよい。

9. 受講上の留意事項

受講上の規則・マナーを守り、ノートを取りながら聴く。疑問点は、自分で調べるか、担当教員に質問すること。